

まず知らなければならないのは “テロ” という嘘

日本のテレビを見ていると「イラクでは今日も米軍に対するテロが・・・」とかいう報道が流れるときがあります。これはよく考えればおかしい話です。イラクで誰が誰にテロを働いたのか？米軍は誰にことわってイラクに居座っているのだろうか？米軍は米国の利益の為にイラクに攻め込み今も殺戮と強盗と暴行を繰り返しています。その米軍に対してイラク人によって行われている攻撃を“テロ”と呼んでいるのが日本の報道です。これは自身が石油産業の一員であるブッシュ米大統領や軍需産業で大きな力をもつチェイニーなどと同じ言い方です。テロという言葉に抱くイメージを侵略行為をのために使っている米国政府、それを無批判に垂れ流している報道には皆さん気をつけてください。

メディアは 最大の犠牲を伝えない

人の命は皆重く、犠牲を数字だけで語るのとは間違っただけで判断に付きやすいということはあるとして、あえて数的に最大の犠牲はどういう人達のもとに降り掛かっているのでしょうか？

イラクの犠牲を伝えるニュースでは、自動車爆弾による特攻で大勢の人が死んだ事件が流れ「スンニ派の武装勢力の・・・」という言葉が耳に残ります。しかしいま最大の犠牲者はスンニ派の人々です。バドル旅団とマフディー軍という二つのシーア派の民兵組織が軍と警察と厚生省の中に浸透していて、町中や病院の中で大勢のスンニ派の住民を拉致、殺害をくりかえし、特に医者などの知識層を狙ってきます。治安回復を理由に居座り続ける米軍はこれを見て見ぬふりで、逆に2万以上の兵力を増派してスンニ派主体の反米レジスタンスを掃討する作戦をおこない、シーア派民兵を共なって、ファルージャでしたような残虐な殺をおこなっています。

私たちはイラクに 何をしたのか？

上で書いた最大の犠牲を違う側面で言えば“子どもたち”だといえます。イラク全土にまき散らされた劣化ウランの犠牲は宗派や人種を選ぶこととはありませんが、年齢には大きく偏って襲いかかってきました。成長期の子ども、とりわけ胎児の時に被爆した子どもの犠牲は凄まじく、小児科には白血病の患者があふれ、妊婦は主治医に「お腹の赤ちゃんに手足はちゃんと2本ずつありますか」ときかなければ安心出来ない状況にあります。

アメリカがイラクにしたこと、湾岸戦争とその後の経済制裁で100万人以上の方が死んだという統計があります。そして4年前に始まったイラク戦争では現時点で死者約65万5000人という数字が英有力医学誌ランセットで発表されました。その全ての虐殺に支持を表明し税金(私たちの税金)を出してきたのがこの日本です。日本に住む私たちは「人を殺したことがないし、殺そうと思ったことも無い」と思っている人が大半だと思いますが、実はとっくに「人殺しの片棒を」担いでいたのです。

私
た
ち
は
知
る
義
務
が
あ
る

今
起
こ
し
て
い
る
テ
ロ
は
誰
か
の
手
で
な
ら
な
い